

## 平成31年度（令和元年度） 第1回近江八幡市子ども・子育て会議

日 時 令和元年6月6日（木）午後2時30分～午後4時45分  
会 場 総合福祉センター「ひまわり館」1階 ホール  
出席委員 ◎中川 千恵美委員、○小西 ひとみ委員、  
榎本 祐子委員、田中 由佳委員、浅井 雅委員、  
寺田 久乃委員、中井 佳世子委員、毛利 芳子委員  
榊原 かず子委員、山本 恵子委員、重野 弘樹委員  
河村 加恵委員、杉本 僚子委員、大野 康記委員  
寺村 浩委員、久家 昌代委員  
(欠席) 田中 裕喜委員、北 拡大委員、平井 徹委員、  
福永 利明委員、前出 みずほ委員、見島 めぐみ委員  
◎：会長等、○：副会長等

傍 聴 者 1名  
議 題 (1) 第一期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について  
(2) 認定こども園、放課後児童クラブ施設等の整備について  
(3) 第二期子ども・子育て支援事業計画の概要と今後のスケジュール  
について  
(4) 小学生対象アンケートについて  
(5) ヒアリングの実施について  
(6) その他

### 議 事 詳 細

#### 1. 開会

#### 2. 委嘱状交付

#### 3. 部長あいさつ

子ども健康部長：本日、ご参集いただきました委員の皆さまにおかれましては、それぞれの分野やお立場で子どもの最善の利益のために、日頃からご尽力いただいておりますことに対しまして、心より敬意と感謝を申し上げる次第でございます。本市では、次世代を担う子どもたちは社会の希望であり、未来をつくる力であるとの考えのもと、子ども・子育て支援事業計画をはじめ、関連する各個別計画に基づきまして位置づけられた重点

事業や、優先すべき課題解決のための施策に取り組んでいるところでございます。限られた時間ですが、熱心な議論になりますようお願い申し上げまして、開催にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。

#### 4. 委員紹介（自己紹介）

#### 5. 会長及び副会長の選出

会長：大阪人間科学大学教授 中川千恵美 委員

副会長：近江八幡市蒲生郡医師会 小西ひとみ 委員

#### 会長就任のあいさつ

会長：それぞれ支援の場で長らく関わっていただいている皆様とご一緒に、近江八幡市子ども・子育て会議を担っていただけることを感謝しております。それぞれの立場で忌憚のないご意見をいただければと思っております。子ども期を妊娠期から考えていきますと、本当にいろいろな部署、制度、法律をまたいでいくこととなります。子どもの育ちに応じながら、どんなバトンを誰に渡していくのか、近江八幡市のいろいろな施策、制度が利用する皆さんのところにどう届いているのかということを考えながら、その良いフィッティングを考えていきたいと思うところです。地域の力はなかなか効果が見えにくいので、地域がこう支えているという仕組みをもっと見える化して、当事者目線で発信をしていけたらなと思っております。近江八幡市でお子さんが生まれ、育ち、育ってよかったという子どもたちが、また近江八幡での自分の育ちということを考えてくれる、そういう循環を作っていくことになればうれしいなと思っております。

#### 6. 議題

##### (1) 第一期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について

事務局より「第一期子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」を説明。

委員：妊娠期の方から子育て期の方までの総合相談窓口である、子育て世代包括支援センターの各種相談件数が増加してA評価にされているということで間違いはないですか。

事務局：増加しているからではなく、子育て世代包括支援センターでの各種相談業務に取り組んだということでA評価にさせていただいています。

委員：一般型をしているのは何か所でしょうか。

事務局：保健センターに母子保健型と基本型の利用者支援員が常駐しております。また、幼児課にも利用者支援員が常駐しており、主には保育園等の相談業務に関わらせていただいています。一般型1か所と母子保健型1か所を設置させていただいております。

委員：大体1日1、2件、平成30年度は891件の子育て相談があります。

事務局：891件のほうは市民保健センター、その次の「入所相談」の2,075件というのが幼児課での件数です。

委員：十分に周知されているのかなという件数に見えます。気軽に相談できる場であれば、多分この件数にはならないと思います。この事業はとても難しく、おそらく他の市でも同じような状況かなとは思いますが多いとはいえないというのが感想です。入所相談が多いことについては、相談の内容が具体的なほうが多くなる傾向にあるのかなと考えています。

委員：ハチピーのアプリは今のお母さんたちには画期的だなと思って見させていただいているんですが、検索したいところにたどり着けないとか、子育てボランティアの団体さんをアプリで見られるようにしていただきたいとか、もう少し工夫していただけるとありがたいと思っております。

またもう1つ、資料3の7ページ16番の「ひかりの子」で平成29年度から30年度にかけての利用人数が大幅に減っているのはどうしてなのかということと、今後、利用人数を増やしていくのかもお聞きしたいと思います。

事務局：アプリについて今ご指摘をいただいたところを踏まえ、皆さんの声を聞きながらブラッシュアップしていきたいと考えております。

発達支援課：利用人数の減少について、昨年度は体制が整わず、4、5歳児の並行通所が年度当初開設できませんでした。年度の途中7月からの開所となり、利用人数の減少につながっていると思っています。利用方法について、昨年度までは入所の時期を年2回にしていたところですが、今年度からは福祉サービスが必要と勧奨された方については、随時入所できるように体制を変えています。必要となったらすぐに対応していける体制を整えることで、待機もなくしていきたいと考えています。

委員：資料3の3ページの待機児童について、平成31年度に子ども園が開設する予定であったができなかったのが、今年また待機児童が増えたというふうにお聞きしました。今年度のほうが平成30年度より児童数が減っているのに、待機児童が増えたのは何か理由があるんですか。

事務局：就学前の児童数については減少傾向にありますが、保育所等の利用を希望する方は増えている状況になっております。特に3歳児さんでは、今まで幼稚園のほうが多かったのですが、今年度は、保育所利用のほうが多くなったという状況になっております。保育ニーズのほうが高まっていることから、お子さんの人数全体は少ないのですが、利用者希望としては増えている、また待機児童が増えている状況でございます。

委員：私からは2点。1点目が資料5の11ページ「乳児家庭全戸訪問事業」の訪問状況で、平成30年度は2か月以内が73.1%、訪問率全数は98.9%となっているんですが、乳児の死亡率はほぼ1か月以内が多いというふうにいわれています。やはり2か月を超えてしまうとそこが救えないと思います。助産師さんとのスケジュールの調整とか、お母さんの体調、お子さんの状況で2か月以内に行けないことはある程度想像はつくんですが、その他で理由があればお聞かせいただきたい。

もう一点、アプリについて、赤ちゃんの駅を見たときに量が多すぎて、例えばトイレ

を借りたいとか、自分が使いたいものがそこにあるのかということが、ちょっと分かりにくいところがあります。できたらエリアをわけて探しやすくするとか、もうちょっとだけ見やすくしていただけると助かります。

健康推進課：生後2か月以内の訪問率が73.1%で、全体は98.9%と差があるということ、また一般的に1か月以内に死亡が多い、さらに産後、10人に1人はうつになると言われていています。これらについては、ハイリスクの判断や連絡があれば、地域の助産院さんや病院の中の助産師さん、保健師が訪問するようにしています。お会いできない理由として、里帰りしているので1、2か月、家に帰りませんという方もおられますが、できるだけ孤立しないように、産後うつでお母さんと赤ちゃんが家のなかで悶々とされることがないようにしたいと思っております。

## (2) 認定こども園、放課後児童クラブ施設等の整備について

事務局より「認定こども園、放課後児童クラブ施設等の整備について」を説明。

委員：私の上の子も市内の放課後児童クラブに入れていただき、定員がどんどん増えて増築されています。子どもがすごくたくさんいるので、いざとなったときに避難訓練もなくて逃げられるのかと心配しています。ハードの面はご説明いただいたので分かりましたが、ソフトの面で対応することはできているのでしょうか。

事務局：小学校区によりましてはニーズが増えてまいりまして、今年度も定員を超えて受け入れをお願いしているクラブもございます。ニーズが高まっている学区につきましては、今後も整備を進めていくという方向で取り組んでいます。ソフト面につきましても、運営事業者の連絡会を設けさせていただき、市の運営のガイドラインや、国の要綱を基に子どもたちにとって、よりよい環境となるよう取り組んでおります。

委員：これから取り組んでいかなければならないこととして、遊こども園ができて、保育士確保が懸念されていますが、遊こども園にいけなかった子どもの何人かは桐原幼稚園に来ています。保護者の方は、次の東こども園ができたときに、桐原学区のみんながその両方の園にしっかり行けるようにしたいと思っております。また、桐原幼稚園にもたくさん支援を必要とする子どもさんも来ておられて、その子どもさんも含めて地域の園に行けるように、私たちも含めて、していかなければいけないと感じています。

委員：先ほどの話で、避難訓練がないということで驚きました。市では、避難訓練等を盛り込んだガイドラインが設置されています。近江八幡市さんはガイドラインを出されているので、実施の部分は運営主体がしっかりやっていかなければならない、団体がそれを進めていかなければならないと思っております。ですので、運営団体さんに保護者が熱い思いでお声かけいただき、子どものために訓練していただきたいと声を上げていただけたらいいかなと思います。

事務局：追加ですが、毎年、各事業所さんから避難訓練等の計画書を出していただいております。またその計画どおり実施できたかどうか実績報告として出していただいております。

ります。避難訓練がないというご意見だったんですが、こちらとしても確認しますが、おそらくされているのではないかと思います。

(3) 第二期子ども・子育て支援事業計画の概要と今後のスケジュールについて

事務局より「第二期子ども・子育て支援事業計画の概要と今後のスケジュールについて」を説明。

会長：子ども・子育て支援事業計画についての基本的な考えについて、昨年から委員をされている方にとっては復習として計画の確認となりました。新たな委員の皆さまにとっては、2015年からの第一期計画が終わって、その趣旨とか概要とか、どんなスケジュールで進むのかという説明でした。

(4) 小学生対象アンケートについて

事務局より「小学生対象アンケートについて」を説明。

会長：小学生アンケートということで、児童、それから保護者にご協力いただきまして、実施させていただいたという報告でした。集計したものは、今後の会議でその結果を委員の皆さんと共有していけたらと思うところです。ニーズ調査の結果も含めて、今回の小学生アンケート調査結果についても改めて検討していきたいと思っております。

(5) ヒアリングの実施について

事務局より「ヒアリングの実施について」を説明。

会長：量に関する調査は、昨年12月に回収して、56%の回収率があったということで、全数の就学前の子ども家庭に送っていただきました。この調査に加えて、そういう調査になかなかご返答いただけない方たちの声や、支援を担っていただいている皆さんからの声をお聞きしたい。当事者に接していらっしゃる方たちや、当事者本人に、もし可能であれば市でやっていることをどう思うか聞いていくという、丁寧な取り組みだと思っております。項目、内容でお気づきになるところがあればと思います。時間的に難しければ、意見書をつけていただいておりますので、FAXでご意見をいただければと思います。あまり量が多くてもお答えいただく方の負担になるので、そのあたりの兼ね合いはあると思うのですが、ご意見をまとめて計画づくりに反映させていただけたらと思います。

(7) 閉会のあいさつ

副会長：皆さま、長時間ご苦労さまでございます。障がい児の保育指導委員が2時からありまして、そちらに出させていただいたあと、こちらへ寄せていただいております。その会議は近江八幡市内の保育園、認定こども園にお預かりしている障がいを持ったお子さんに、どうかたちの加配をしたらいいかを検討する会ですが、その中でも、昔と比

べると保育園のニーズ自体が増えていることと、障がいのあるお子さんが増えていることを感じながら皆さんとお話してきました。この会議も前回から関わらせていただいています。5年前にニーズ調査やアンケートをして、その5年後の去年にも実施しましたが、なかなか思い通りの結果がでない。こういうことがまだできていないよということを突きつけられた調査の結果だったと思います。5年前、計画を作ったけれども、やっぱりそれだけでは済まない。皆さんが納得していただけるような施策をしていかなければならないんじゃないかなと感じております。皆さんと一緒にまたこれから5年間、一緒に考えながら協力していければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。